

# 協調学習を活かした、新たな授業に 向けて ～協調学習、能動的学習、ポートフォリオ～

2010年2月26日

慶應義塾大学 伊藤 健二



# 構成:

---

1. FD・授業改善
2. 協調学習の実践
  - 能動的な学習
  - ポートフォーリオ
3. 学士の卒業に当たって求められる能力
4. 今後に向けて

# FD・授業改善

FD:平成20年4月大学設置基準の改正で義務付け

	日本	米国
学士課程教育 (うまくいっている)	11%	52%
改善や活性化の必要性を感じる	91%	10%
FD実施	73%	97%
FD実施の自己評価 (良好+ある程度)	43%	62%

出典: 広島大学・有本章教授「21世紀COE「21世紀型高等教育システム構築と質的保証」平成15-17年にかけて、日本(343校)、米国(206校)、等の学長からの回答を集計

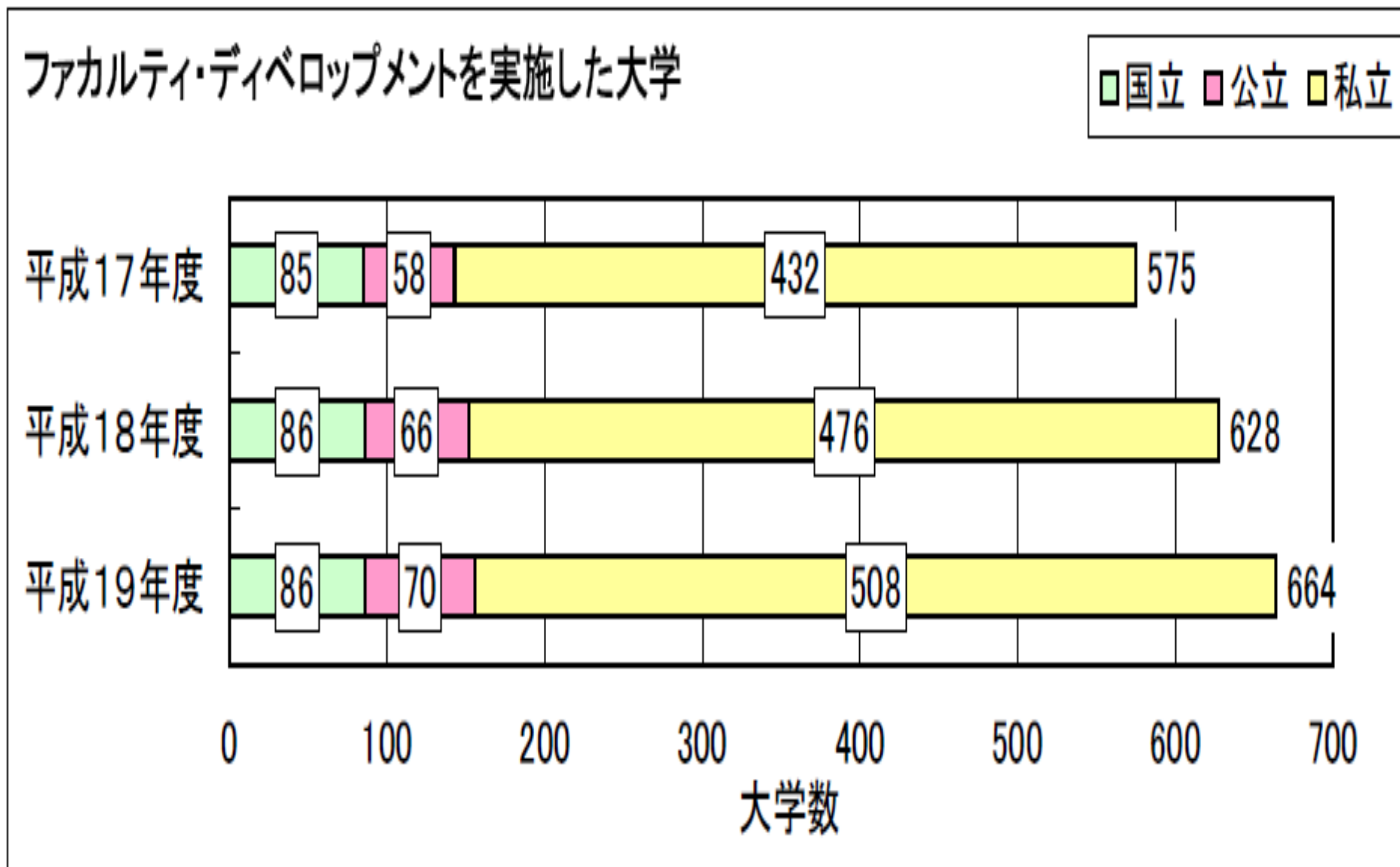
Copyright, 2010@Kenji Ito

p.2



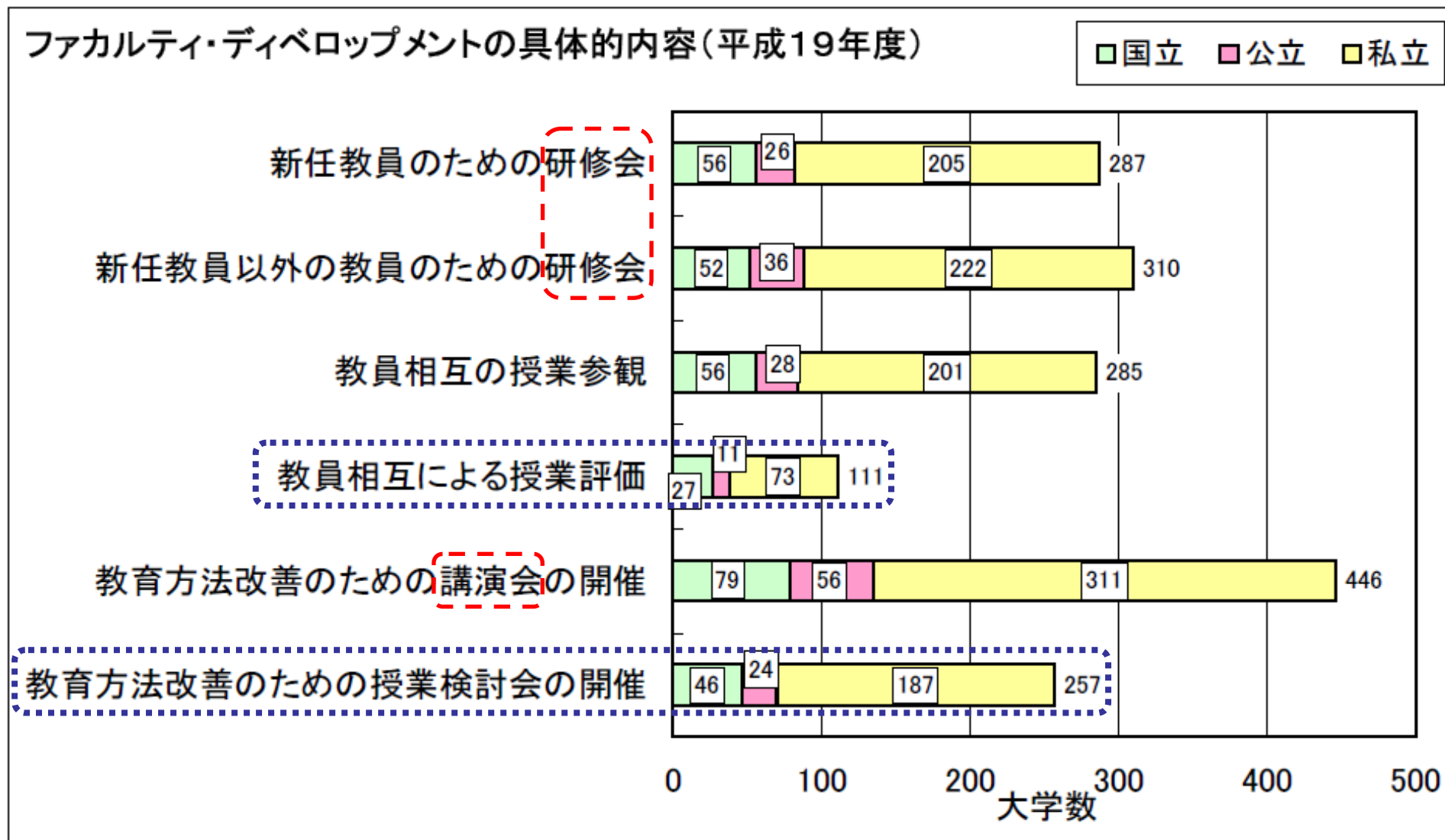
# FDの実施状況・具体的内容

出典：文部科学省「大学における教育内容等の改革状況について」平成21年3月31日



# FDの実施状況・具体的内容

出典:文部科学省「大学における教育内容等の改革状況について」平成21年3月31日

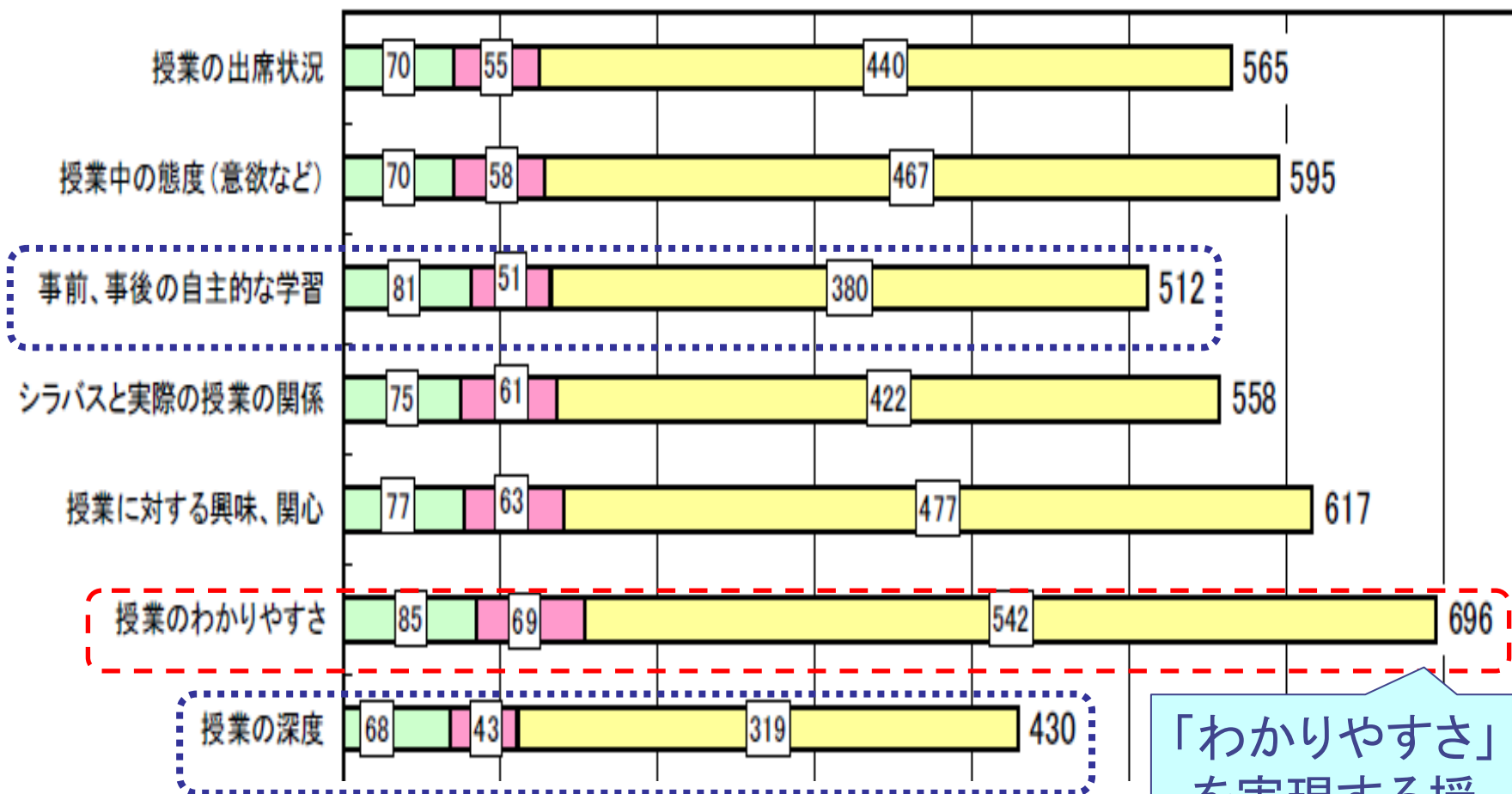


# 授業評価

出典：文部科学省「大学における教育内容等の改革状況について」平成21年3月31日

## 授業評価における評価項目(平成19年度)

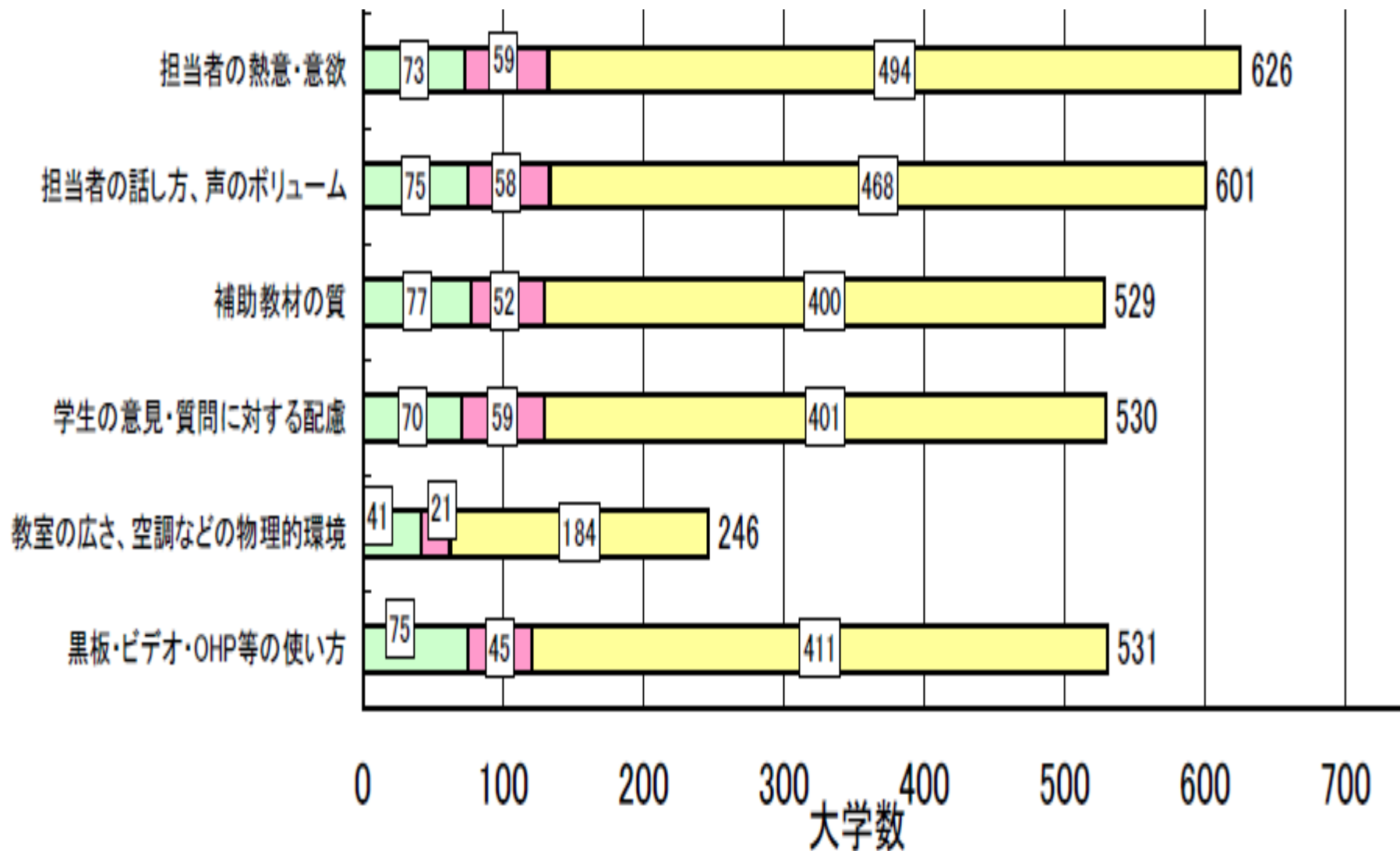
■国立 ■公立 ■私立



「わかりやすさ」  
を実現する授  
業方法は？

# 授業評価

出典: 文部科学省「大学における教育内容等の改革状況について」平成21年3月31日



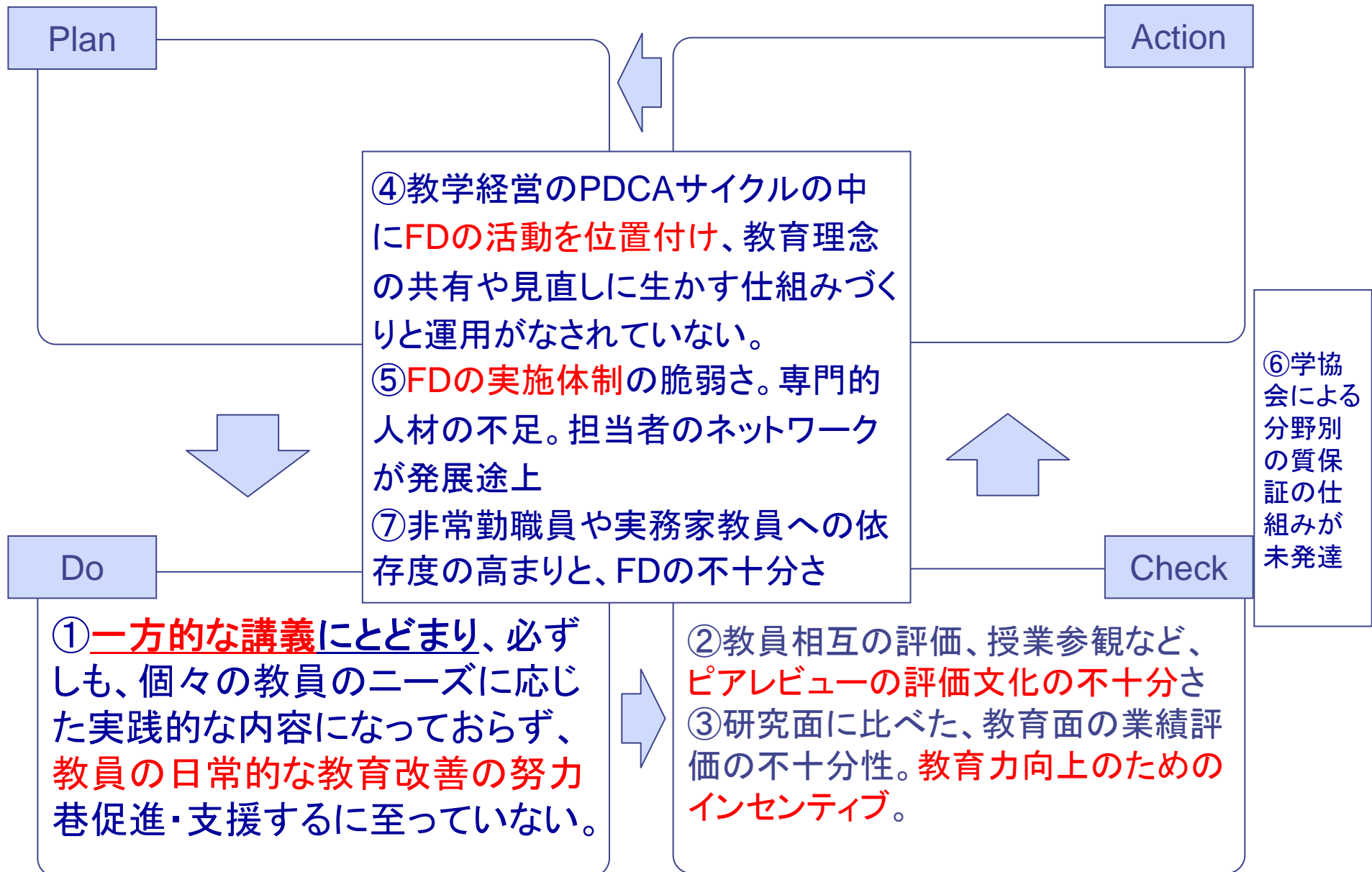
# FDに関する現状の課題(「学士課程教育の構築に向けて」

(H20年12月中央教育審議会答申)より

1. 一方的な講義にとどまり、必ずしも、個々の教員のニーズに応じた実践的な内容になっておらず、教員の日常的な教育改善の努力を促進・支援するに至っていない。
2. 教員相互の評価、授業参観など、ピアレビューの評価文化がいまだ十分に根付いていない。
3. 研究面に比して教育面の業績評価などが不十分であり、教育力向上のためのインセンティブが働きにくい仕組みになっている。
4. 教学経営のPDCAサイクルの中にFDの活動を位置付け、教育理念の共有や見直しに生かす仕組みづくりと運用がなされていない。
5. 大学教育センターなどFDの実腕体制が脆弱である。例えば、FDに関する専門的人材が不足している、学内で各学部の協力を得る上で困難がある、FD担当者のネットワークが発展途上、といったことが聞かれる。
6. 学協会による分野別の質保証の仕組みが未発達であり、分野別FDを展開する基盤が十分に形成されていない。
7. 非常勤教員や実務家教員への依存度が高まる一方で、それらの教員の職能開発には十分目が向けられていない。

# 「FDに関する現状の課題」の整理

(「学士課程教育の構築に向けて」  
(H20年12月中央教育審議会答申)より)



---

# 協調学習の実践

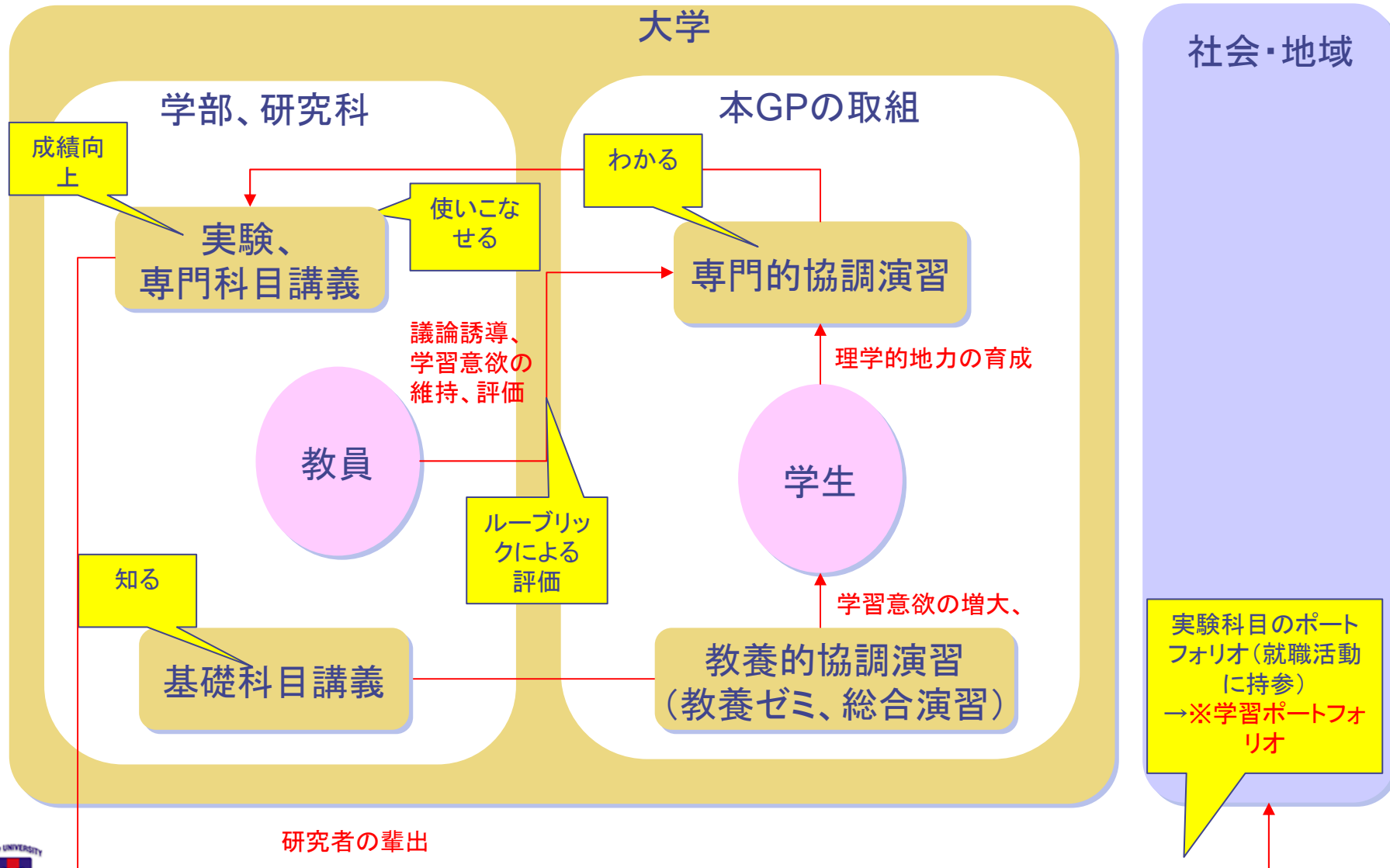
## —「広島大学特色GP」の例から 能動的学習、ポートフォリオの活用へ—

# 広島大学特色GP

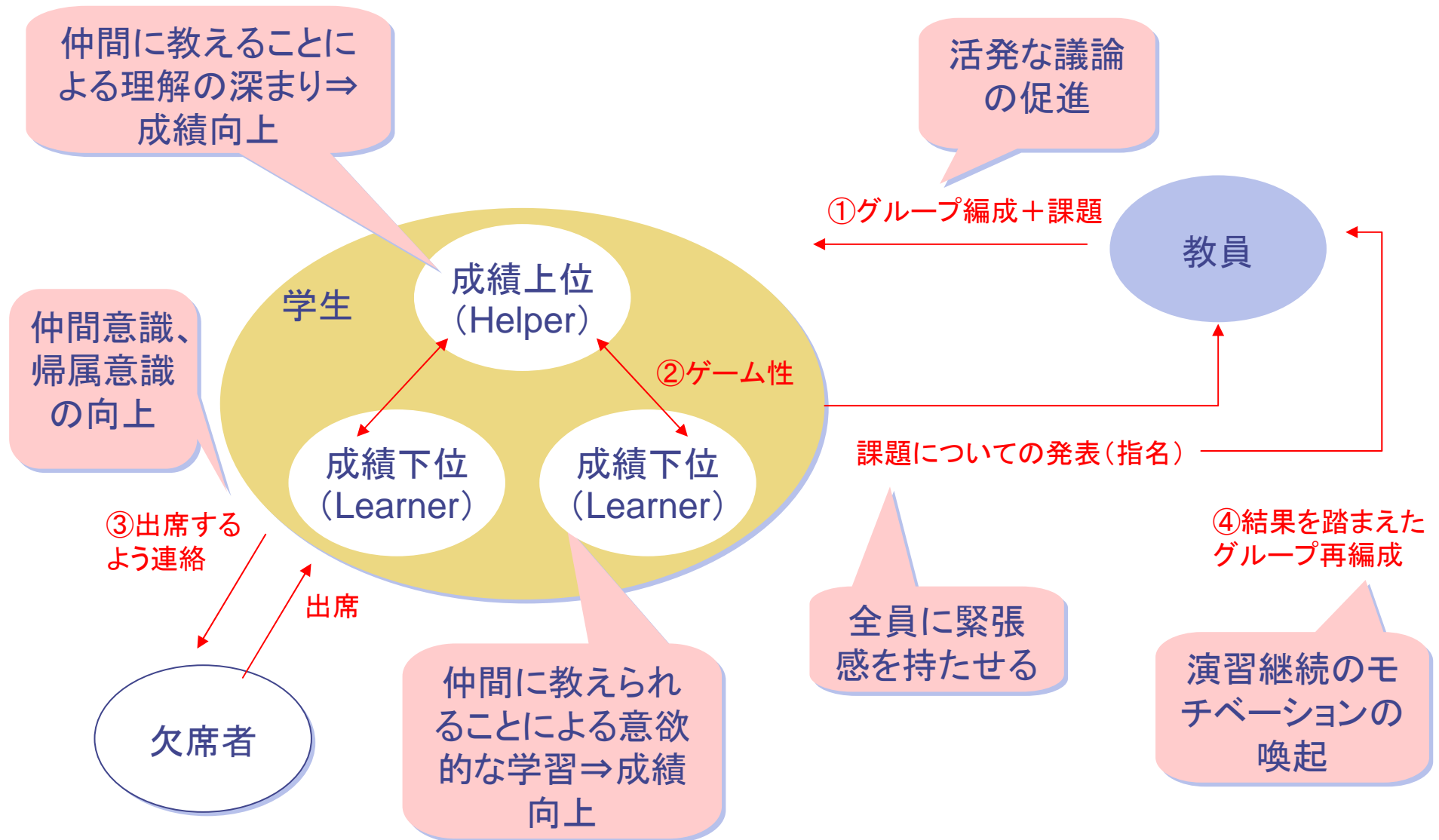
- ◆ 専門科目で得た知識を「知る」から「わかる」へと転換させ、「使いこなせる確固たる知識」に裏打ちされた創造性豊かで新しい学問領域のフロンティアとして活躍する研究者を育成することを目的として、学生同士が互いに「教えることによって学ぶ」認知的学習法に基づく協調演習を実施。
- ◆ 「教える学生」と「学ぶ学生」からなる学習者のコミュニティを構成し、学習意欲の維持増大と理学的知力の育成を推進。その結果、成績下位層の理解度のみならず、成績上位層の理解度も飛躍的に向上。

# 広島大学特色GP

※ 学習ポートフォリオ： 学生が、自らの学習成果の達成状況について整理・点検するとともに、これを大学が活用し、多面的に評価する仕組み。(文部科学省「学士課程教育の構築に向けて」中教審答申 2008年12月24日より)



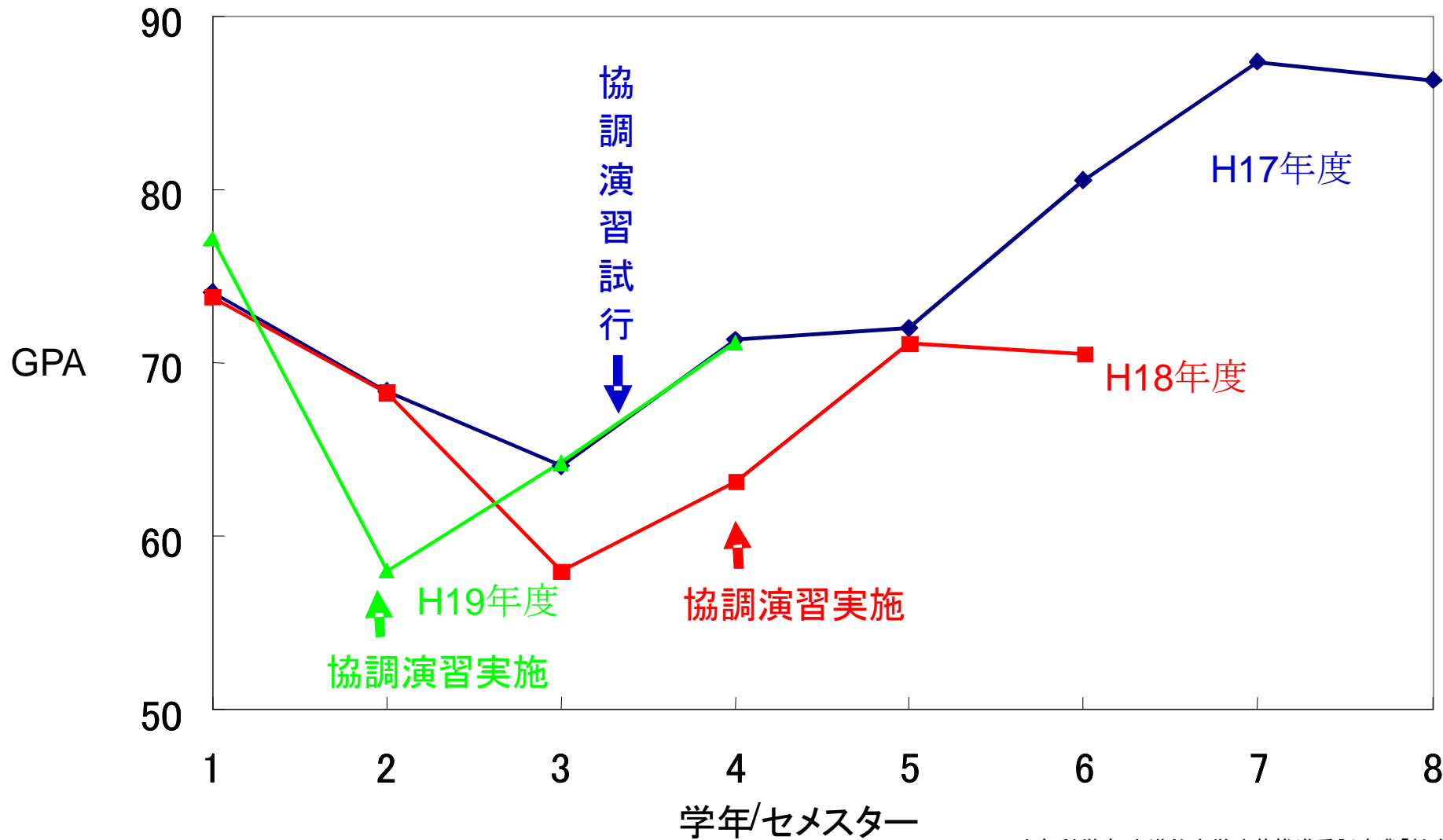
# 「専門的協調演習」における、学生が自発的に学びあう協調学習モデル



# 協調学習の実施方法(広島大学)

要件	具体例
学生の特性を活かしたグループ編成ができる	5名からなるグループは、学生の特性にもとづき、グループ全体で議論が活発になるような組み合わせを教員が編成
ゲーム性を付加できる	5つの課題を与え、早く解き終えたグループから終了できるようゲーム性を与える(最下位のグループには罰ゲームで追加演習問題)
学生全員に緊張感をもって取り組ませることができる	グループ内で解答を発表する者は、教員が指名
仲間意識を高める工夫ができる	欠席者1人につき、20分ペナルティ 学生同士が自主的に連絡。
継続のモチベーションを高める工夫ができる	最下位のグループは解散して、次回は新チームに編成替え

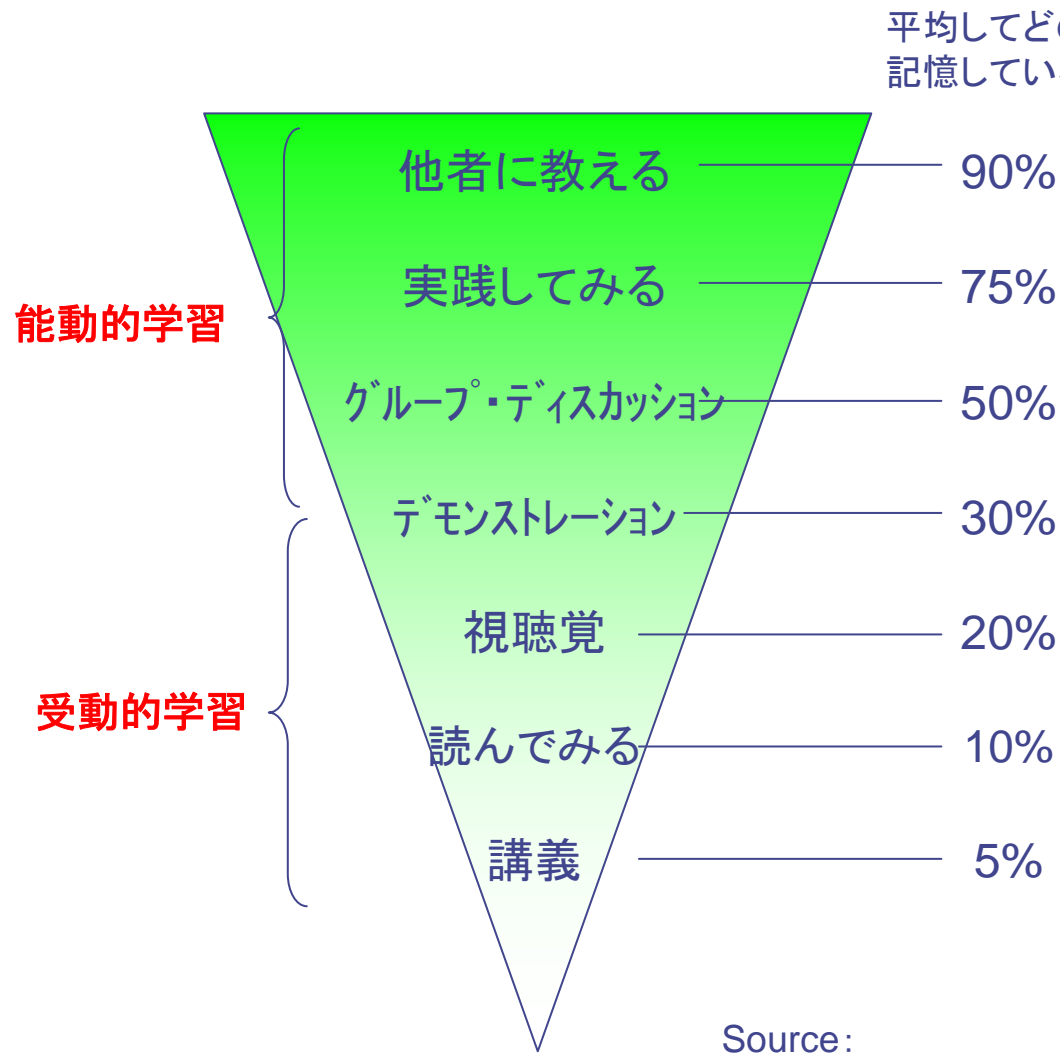
# 広島大学 入学年度別成績(GPA)推移



文部科学省 先導的大学改革推進委託事業「社会のニーズに応える人材養成を目的とした教育プログラムの在り方に関する調査研究」委託先: 慶應義塾大学  
広島大学特色GPより提供



# 受身で学習するだけではない、学習モデル



Source:  
National Training Laboratories,  
Bethel, Maine.

国内の調査研究結果  
※対面講義との差  
(成績向上の偏差得点)

eL相互: 4.81\*\*

テキスト相互: 1.39\*

分散eL: 1.22

教室eL: 0.01

**対面講義**

eL画面を共有し、学習者インタラクション

学習者同士のインタラクション

若干の向上時間の短縮

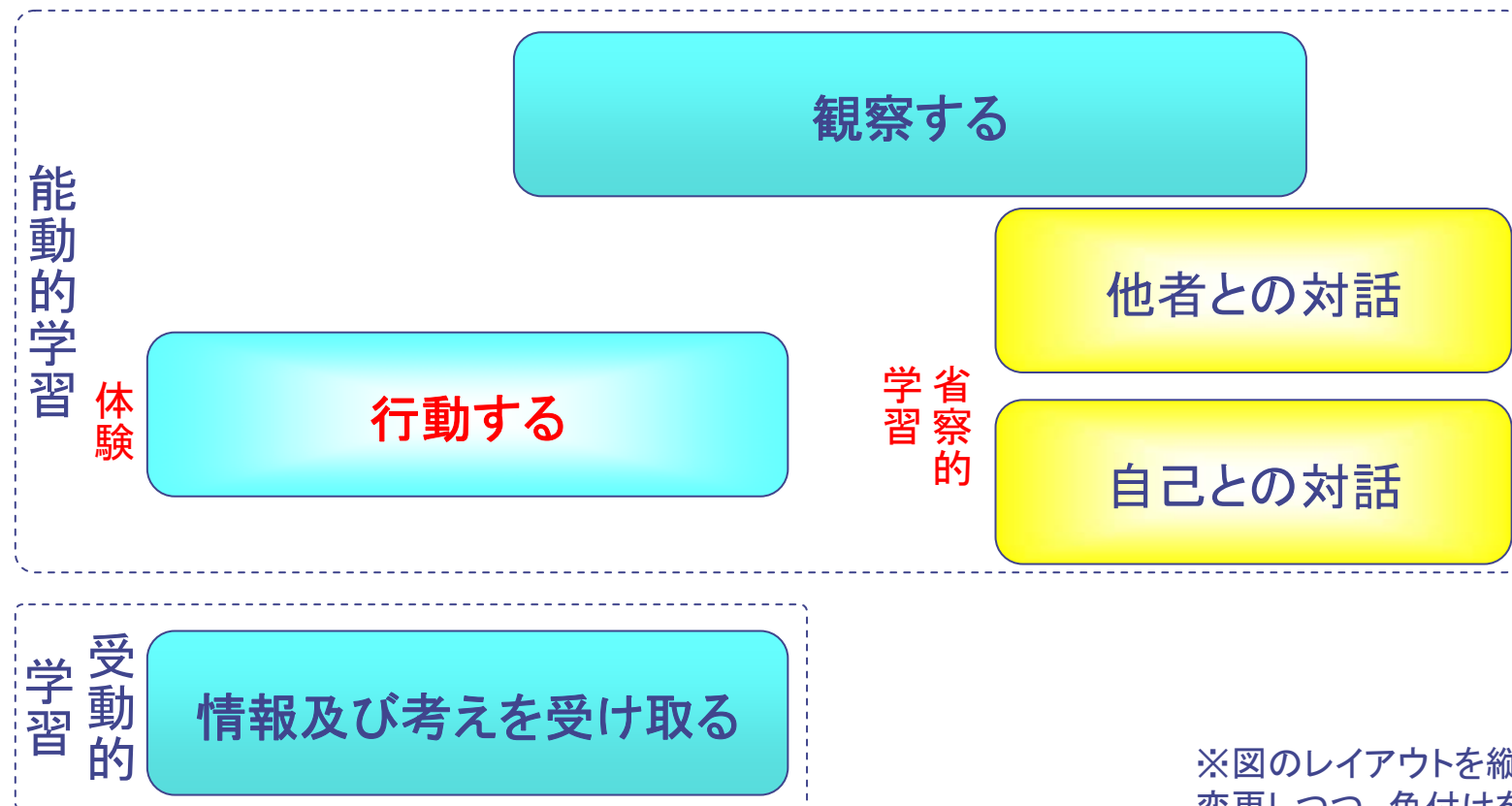
成績向上はない

Source:  
山本 洋雄 中山 実 清水 康敬、「ブレンド型含む学習形態別の学習効果」、2009年12月19日

# 「能動的学習モデル」の基本版

James Eison

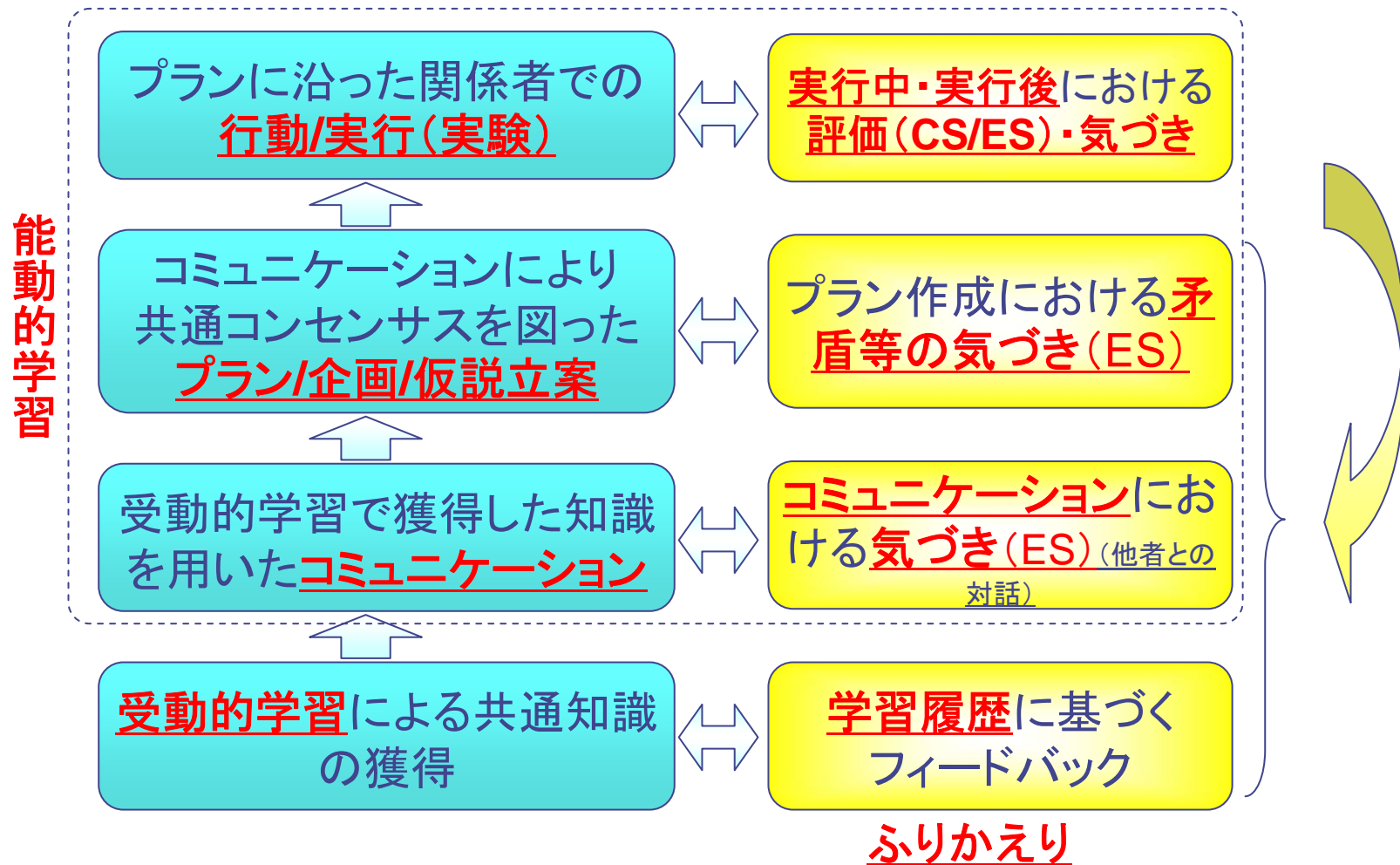
- ◆ 能動的学習が行動や観察するだけの体験に終わらないで、自己や他者への対話による省察を加えること、すなわち、知識・体験・省察を統合することが重要である。



※図のレイアウトを縦横  
変更しつつ、色付けを行った

# 「受動的学習」から「能動的学習としての活動」へ

- ◆『「能動的学習モデル」の基本版』に対して、『行動部分に仮説検証』を追加し、受動から能動に及ぶ学習全体にPDCAを導入する  
⇒ 持続的・継続的な成長の実感



◆能動的学習として、様々な人との「コミュニケーション、実行、「ふりかえり」を行っていく上で、それらの活動をまとめて「残す」仕組み(⇒学習ポートフォリオ)が必要

# 「ポートフォリオ」に関する着目：高等教育

中央教育審議会答申2008.12「学士課程教育の構築に向けて(答申)」

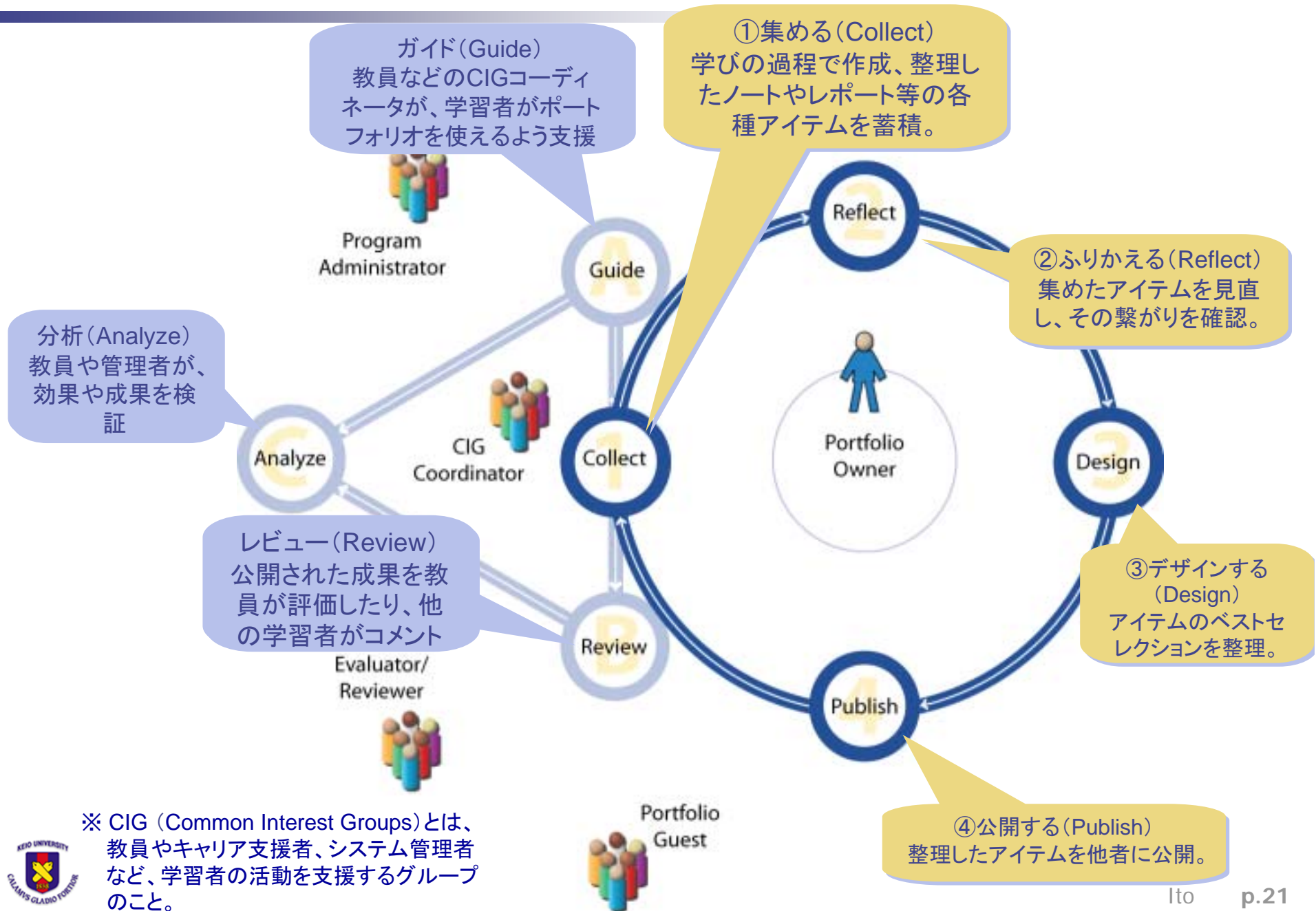
- ・「4. 成績評価 (3) 具体的な改善方策(大学に期待される取組)」の一つとして、GPAの学内共有・厳格な適用などと並んで、下記のとおり明記されている：
  - ・「**学生が、自らの学習成果の達成状況について整理・点検するとともに、これを大学が活用し、多面的に評価する仕組み(いわゆる学習ポートフォリオ)の導入と活用を検討する。」**

# 「ポートフォリオ」に関する着目：生涯学習

生涯学習審議会1999.4「学習の成果を幅広く生かす－生涯学習の成果を生かすための方策について－（中間まとめ）」

- 自らのキャリアを開発し、学習成果を社会的活動、進学、就職、転職、再就職などに広く活用していくために、自らの学習成果を積極的にアピールし、社会的評価を求めることができるようにする必要性が生じている。
- 社会や企業の側にしても、その人の学習成果を確認する資料があれば、採用や登用の際にそれを活用することができる。  
⇒これからは、個々人がそれぞれの学習成果の記録として、例えば外国のポートフォリオのような「生涯学習パスポート」（生涯学習記録票）を作り、活用できるようにすべきであろう。
- 自己評価や自分自身についての記述を盛り込むことができるようにしておかなければならない。
  - 学校歴、学校外の学習活動歴、
  - 資格リスト、技能リスト、
  - 職歴、
  - ボランティア歴、地域活動歴、自分の進歩についての自己評価、今後の抱負等

# OSPIにおけるポートフォリオ活用フロー



# 大学におけるポートフォリオ活用:3タイプ

目的	大学内での関わりのシーン
自分の過去の登録科目の <b>成績を把握</b> すると共に、必要に応じて、先生等と相談し、自分に必要な科目に <b>履修登録</b> をすること。	履修計画、相談、登録、成績確認 ※九州工大、等
学生や企業の視点から、教育目標設定、教材開発、教育効果測定等の <b>FD</b> を行い、 <b>教育のPDCAサイクル</b> を実践すること。	教育目標設定、シラバス・教材開発 成績評価、履修相談対応、FD ※金沢工大、等
就職活動において、自己分析を行い、「 <b>なりたい自分</b> 」をみつけ、 <b>納得できる就職</b> をすること。	就職対策講座 就職相談/カウンセリング キャリア支援システム インターン管理(システム) ※様々な学生支援事業(400)等

# 広島大学での特色GPでの実践を通して

---

- ◆成績があがる、等の成果以外に、
- ◆どのような能力が向上したと言えるのでしょうか？
  
- ◆学生が「ポートフォリオ」を残す中で、その能力について、考えてみませんか？

---

# 学士の卒業に当たって求められる能力

# 学士力 —学士課程共通の学習成果に関する参考指針—

◆国として、学士課程で育成する「21世紀型市民」の内容(日本の大学が授与する学士が保証する能力の内容)に関する参考指針を示すことにより、各大学における学位授与の方針等の策定や分野別の質保証枠組みづくりを促進・支援する。

区分	概要	項目	
1. 知識・理解	専攻する特定の学問における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。	(1) 多文化・異文化に関する知識の理解	
		(2) 人類の文化、社会と自然に関する知識の理解	
2. 汎用的技能	知的活動でも職業生活や社会生活でも必要な技能	(1) コミュニケーション・スキル	日本語と特定の言語を用いて、読み、書き、聞き、話すことができる。
		(2) 数量的スキル	自然や社会的事象について、シンボルを活用して分析し、理解し、表現することができる。
		(3) 情報リテラシー	情報通信技術(ICT)を用いて、多様な情報を収集・分析して適切に判断し、モラルに則って効果的に活用することができる。
		(4) 論理的思考力	情報や知識を複眼的、論理的に分析し、表現できる。
		(5) 問題解決力	問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を確実に解決できる



# 学士力 —学士課程共通の学習成果に関する参考指針—

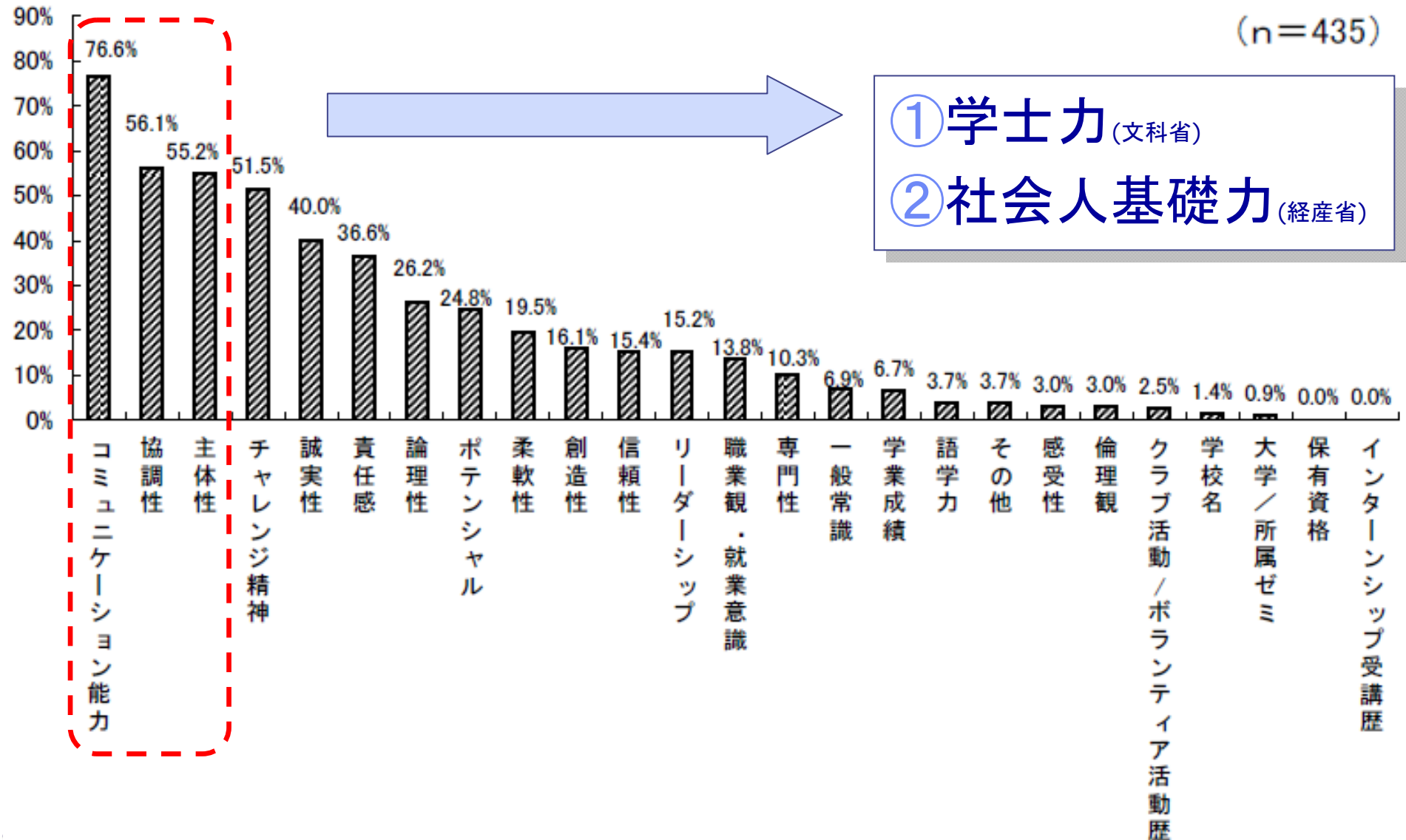
◆国として、学士課程で育成する「21世紀型市民」の内容(日本の大学が授与する学士が保証する能力の内容)に関する参考指針を示すことにより、各大学における学位授与の方針等の策定や分野別の質保証枠組みづくりを促進・支援する。

区分	項目	
3. 態度・志向性	(1) 自己管理能力	自らを律して行動できる。
	(2) チームワーク、リーダーシップ	他者と協調・協働して行動できる。また、他者に方向性を示し、目標の実現のために動員できる。
	(3) 倫理観	自己の良心と社会の規範やルールに従って行動できる。
	(4) 市民としての社会的責任	社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使つつ、社会の発展のために積極的に関与している。
	(5) 生涯学習力	卒業後も自律・自立して学習できる。
4. 統合的な学習経験と創造的思考力	これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力	



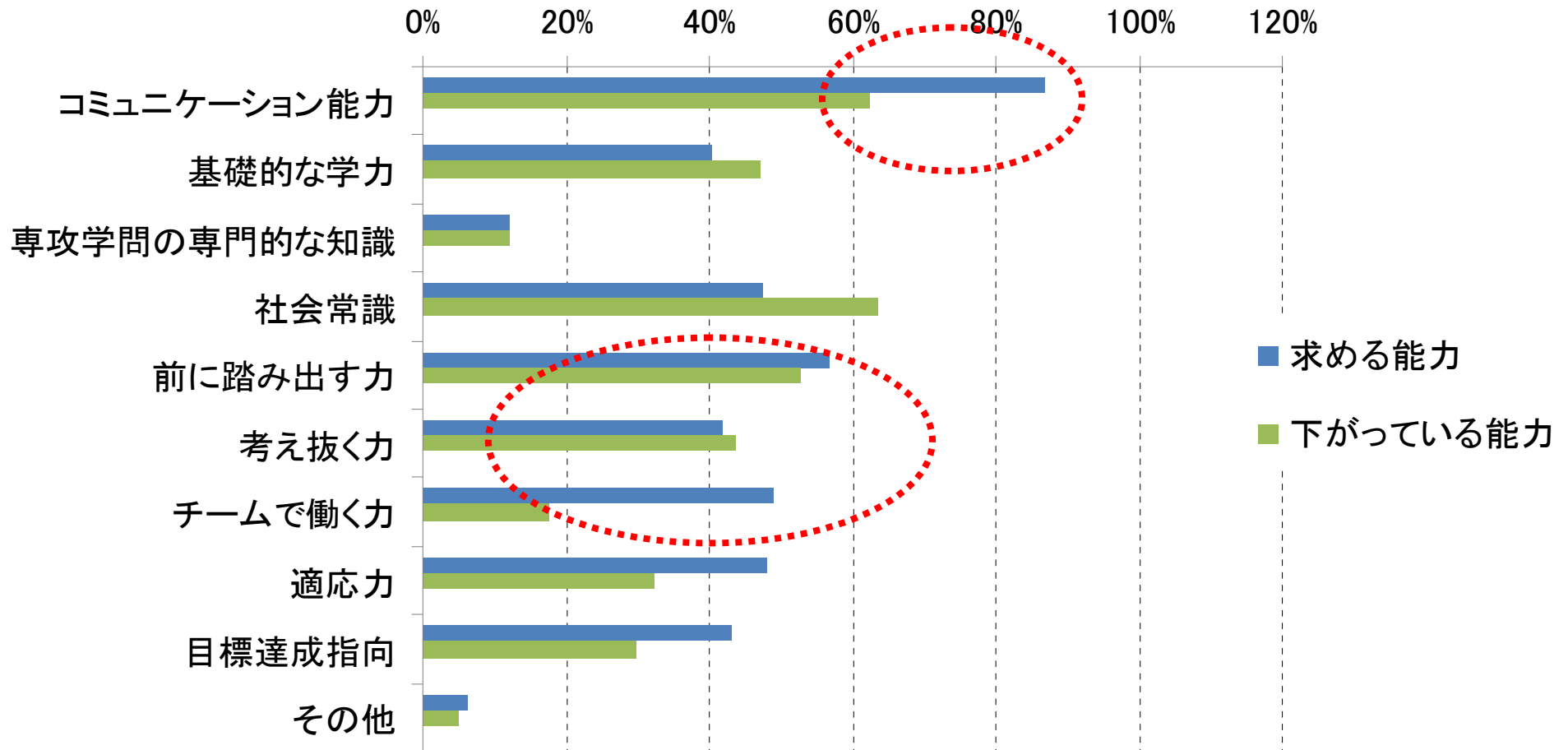
# 新卒の採用選考にあたっての重視点

◆日本経済団体連合会、2009年4月10日、2008年度・新卒者採用に関するアンケート調査結果



# 新卒に対して求めるが、下がっている能力

◆採用プロ、2009年7月31日、2008年度・企業人事担当者向けアンケート調査



N=280  
(2008年7月23~31日)

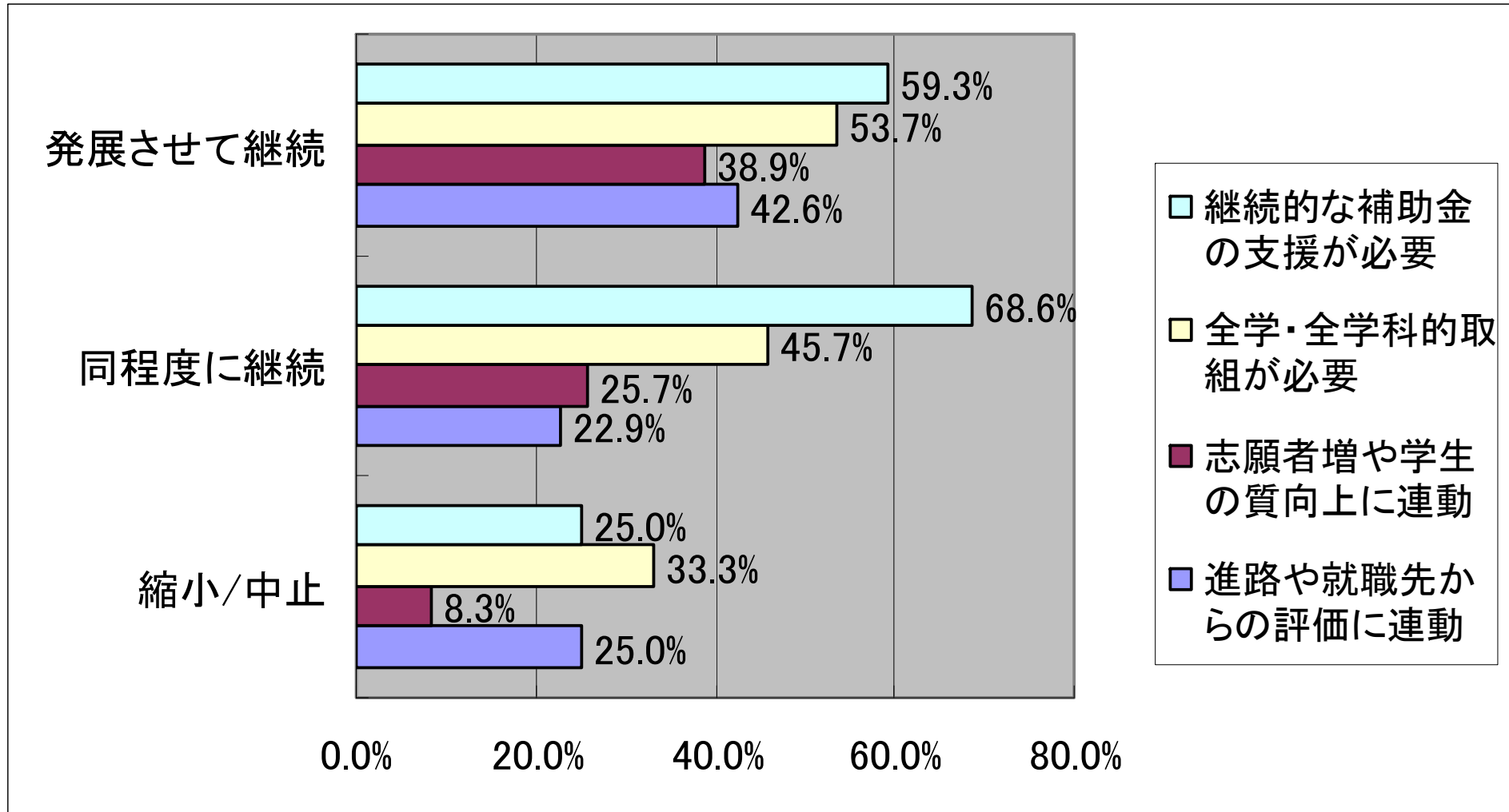


---

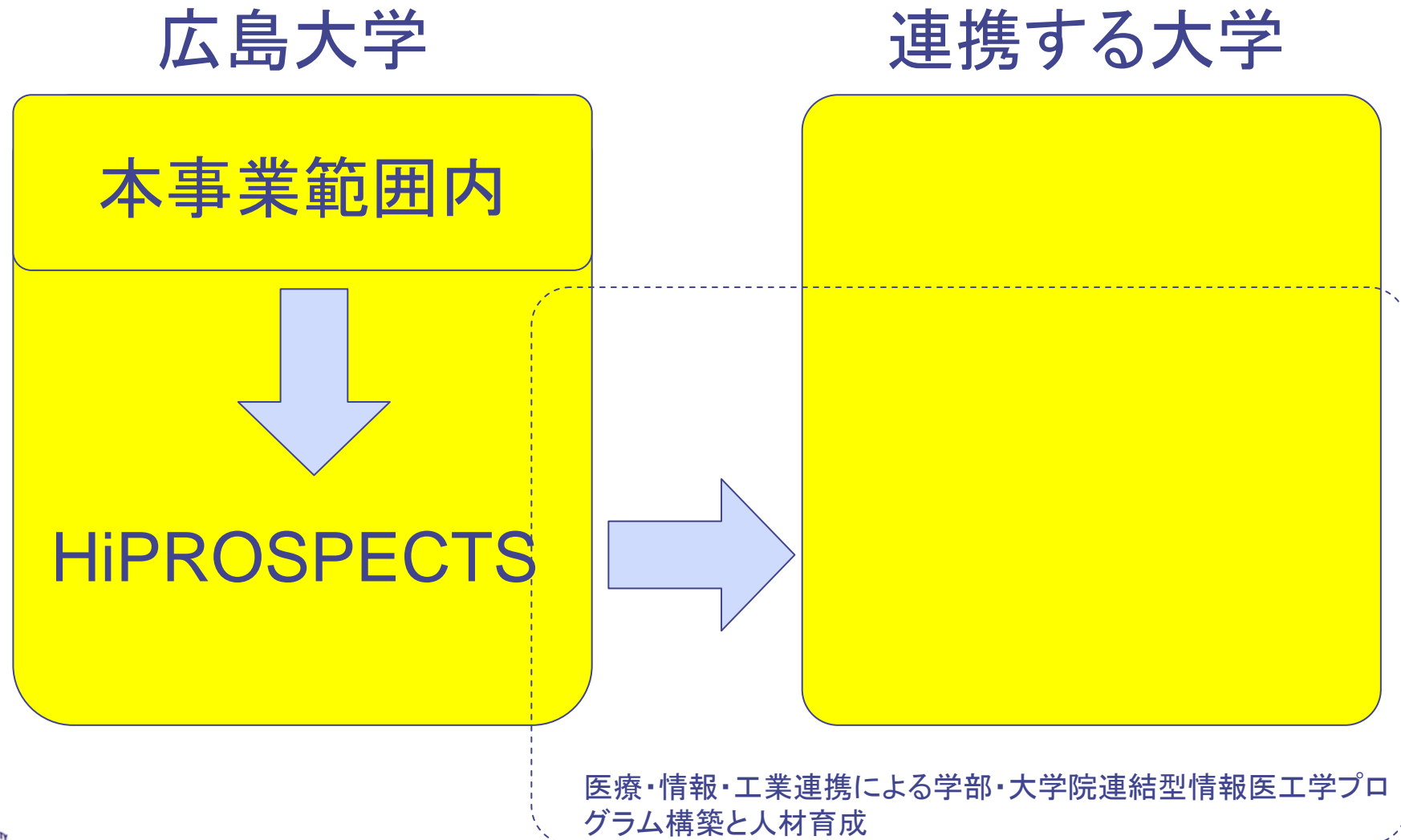
# 今後に向けて

# 「継続の見通し」と「支援終了後の課題」

◆広島大学、平成19年7月、「競争的な教育資金の効果の検証及び今後の在り方に関する調査研究」



# 学内展開・学外展開？ 広島大学として？



# まとめ

---

- ◆ 協調学習を活用した、今後の可能性
- ◆ ポートフォリオも連携することによる、「**能動的学習**」へ
- ◆ 学士に求められる能力である、「**生涯学習力**」等、適切な能力の育成へ
- ◆ FD等の「**大学の仕組み**」としての継続へ
  
- ◆ 今後も期待しています！

---

ご静聴頂き、ありがとうございました。

